

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	安曇川町立安曇小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	25
児童数	73	55	66	61	80	60	3	398	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学びの意欲あふれる「安曇っ子」の育成          「 - 「基礎学力」をベースにして「基礎・基本の定着」と「自ら学ぶ力の育成」          のための指導方法の工夫 - 」</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全校 算数科を中心にした教科等の学習          児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。          全校 生活科・総合的な学習の時間          本校には、教科等との関連を追究するための研究実績があるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

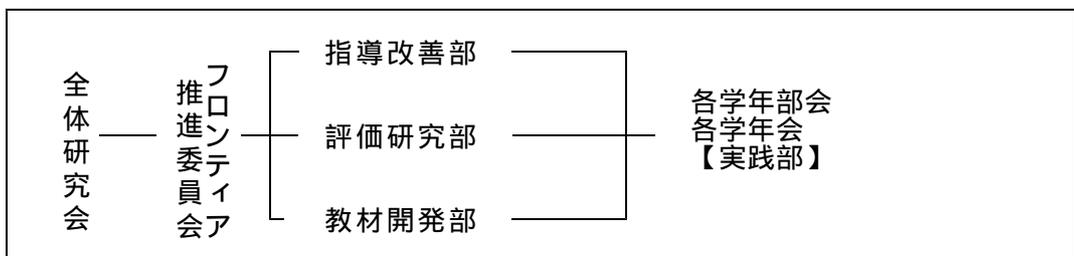
平成14年度	<p>テーマ          学びの意欲あふれる「安曇っ子」の育成          『 「基礎学力」をベースにして「基礎・基本の定着」と「自ら学ぶ力の育成」のための指導方法の工夫 』</p> <p>仮説          ・個々の子どもが見通しを持ち、読み・書き・計算などを繰り返し学習すれば、基礎学力が向上し、自信と意欲を持って学習に取り組めるだろう。          ・課題解決的な学習方法を重視して、算数科を中心に子どもの考え・意見等を大事にしながら、習熟度別グループを取り入れた少人数における指導方法を工夫すれば、子ども達は意欲的に学習に取り組み、確かな学力が育つであろう。          ・つきたい力を明らかにして、教師も子どももわかりやすい方法で評価すれば、個に応じた授業が展開でき、一人ひとりが主体的に学習に取り組むようになるだろう。</p> <p>研究内容・方法          「確かな学力」が車であるとして、「基礎・基本の定着」(教科等の目標・内容)と「自ら学ぶ力の育成」(総合的な学習の時間「リバーウォッチング in 安曇川」)をその両輪として位置付け、両者の調和を図り、深めていくために、研究組織を次の三部会とした。          ・基礎学力研究部(国語・算数科等の教科学習での基礎学力の育成、補充・発展学習の工夫、パソコンスキルの習得等)          ・授業研究部(算数科を中心とした少人数授業の推進、補充・発展学習のための教材開発、指導過程の工夫、体験的学習、社会人活用の積極的推進、教科担任制の導入等)</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価研究部（目標・評価・指導の一体化と子どもの自己評価の工夫をめざす、評価規準の作成、通知票の工夫、振り返りカード・評価カード等の工夫等）</li> </ul>
--	--

平成15年度	<p>テーマ          学びの意欲あふれる「安曇っ子」の育成          『「基礎学力」をベースにして「基礎・基本の定着」と「自ら学ぶ力の育成」のための指導方法の工夫』</p> <p>仮説          ・教科等と総合的な学習の時間で培われる力の関連を強く意識し、両者の相乗効果を確信しながら追究していくことにより、生きて働く「確かな学力」が向上するだろう。          ・評価規準を指導計画に位置付け、子どもの実態や学習のねらい、内容に応じた学習体制を工夫することにより、教科等の基礎・基本の力がつくとともに、発展的に考える子が育ち、個に応じた指導が行えるだろう。</p> <p>研究内容・方法          研究仮説実証のため研究組織を平成14年度の反省をもとに、次の三つに改編し、学年部単位の研究を中心に行うことにした。          ・指導改善部（少人数学習等（特に習熟度別グループ）授業改善の推進）          ・評価研究部（指導と評価の一体化をめざした評価活動の推進）          ・教材開発部（補充、発展的学習の推進と教材の開発・家庭学習のあり方を含む）</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ          学びの意欲あふれる「安曇っ子」の育成          『「基礎学力」をベースにして「基礎・基本の定着」と「自ら学ぶ力の育成」のための指導方法の工夫』</p> <p>仮説          ・教科等と総合的な学習の時間で培われる力の関連を強く意識し、両者の相乗効果を確認しながら追究していくことにより、生きて働く「確かな学力」が向上するだろう。          ・評価規準を指導計画に位置付け、子どもの実態や学習のねらい、内容に応じた学習体制を工夫することにより、教科等の基礎・基本の力がつくとともに、発展的に考える子が育ち、個に応じた指導が行えるだろう。</p> <p>研究の内容・方法          ・子どもの実態に応じた少人数学習等（特に習熟度別グループ）授業改善の推進・指導と評価の一体化をめざした評価活動の推進・補充、発展的学習の推進と教材の開発（家庭学習のあり方を含む）・地域や社会との連携の強化</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題  
1. 研究成果

【子どもの変容】

平成14年度滋賀県算数科学力診断テストの結果から

	滋賀県平均		安曇小平均	
	正答率	誤答率	正答率	誤答率
4年生	79.6%	20.4%	89%	11%
5年生	79.9%	20.1%	85.9%	14.1%
6年生	86.4%	13.6%	87.8%	12.2%

安曇小学校における算数科基礎学力前学年習得率調査結果より

	1年生分	2年生分	3年生分	4年生分	5年生分
3年生	96%	82%			
4年生	93%	85%	82%		
5年生	94%	95%	93%	89%	
6年生	89%	91%	90%	85%	79%

<b>全校</b>	<b>93%</b>	<b>88%</b>	<b>88%</b>	<b>87%</b>	<b>79%</b>
-----------	------------	------------	------------	------------	------------

文部科学省学力向上フロンティア事業に関する意識調査より  
(習熟度別少人数での学習について)

	勉強の内容及がよくわかる	自力で学習問題を解決する
3年生	78%	72%
5年生	84%	92%

④自分の選んだクラスのペースで落ち着いて学習に取り組めるようになった。

【教師の変容】

少人数習熟度別学習の授業形態に慣れたと同時に自信をもって授業にのぞめるようになってきた。

子ども一人ひとりの実態把握につとめた結果、適切なタイミングで、支援をすることができるようになった。

教材開発が進み、授業効率が上がり、単元・時間で指導するポイントがシンプルに明確化できるようになった。

指導組織・体制の改善を行うことにより、教師の意識変革につながり積極的な開かれた学級経営がおこなわれるようになった。

2. 今後の課題

読み、書き、計算等の基礎学力の徹底のため、習熟度等の「個」に応じた指導方法をいかに工夫するか。  
学習の伸びの測定方法、客観的な評価方法等、子ども一人ひとりの実態を把握できるような個人データをどのように作成していくか。  
保護者と連携し、家庭学習の充実をさらに図る必要がある。  
家庭・地域との連携をさらに深め、学力向上への取り組みをいかに情報発信していくか。

## 学力等把握のための学校としての取り組み

- ・ 座席表の作成、振り返りカードの作成
- ・ 定期的な学力調査の実施（年1～2回程度）・・・県一斉、学校独自
- ・ プレテストや診断テストの実施（各単元終了前テスト・・・補充、発展学習前）
- ・ ポートフォリオ等の学習ノートの工夫（6年間を通してのポートフォリオの作成）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 研究協議会の開催

1. 日 時 平成15年11月21日（金） 13:30～16:40

2. 会 場 安曇川町立安曇小学校

3. 日 程

授業公開 13:30～14:15 （2・5年生）

授業研究会 14:30～15:40

講演 15:40～16:40

「地域ぐるみの学力向上」

福井県大野市教育委員会学校教育課

山川龍一係長

ホームページによる研究実践の公開

本校のフロンティア事業の取り組みは、本校のHPにおいて授業研究の取り組みの様子を中心に、基礎学力向上に関する学校の取り組みをきめ細かに紹介し、公開している。

<http://www.ex.biwa.ne.jp/~adosyou/> 検索エンジン "yahoo" でも安曇小（あどしょう）で、検索できる。

保護者向け学校説明会や学校便りによる研究実践の公開

具体的な取り組みの様子や数値をあげた取り組みの成果を毎月発行している学校便り「あど」において公表するとともに、授業参観を通して、取り組みに対する保護者の理解と協力を求めている。また、保護者に依頼した「学校評価」の項目に取り組みの評価を入れて評価してもらっている。

学力向上フロンティア事業」の取り組みの一環として、新聞社（4回）、TV局（2回）等の取材にできるだけ応じ、広く実践を紹介している。

講師として実践発表を年数回行っている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導  T Tによる指導  
一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有  無